

モーツアルト盤を聴く(45)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(45)—

1. 始めに

前報(44)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

前報(9)から、アース関係が仮想アース Crystal E の導入(7)で報告のとおり、仮想アース Crystal E の追加とアース専用ケーブル Clone 2 が加わっていますが、LINN LP-124 のシステムに関係するのは、ZANDEN Model120 のアースケーブルが Western の撚り線から Clone 2 に代わっていることです。

加えて、仮想アース Crystal E の導入(15)で報告しましたように、スピーカーケーブルの結線に自作の仮想アースを接続しています。

音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回もピアノ協奏曲です。

エラート ERX-2297

モーツアルト ピアノ協奏曲 9 番変ロ長調

ピアノ協奏曲 17 番へ長調

マリア・ジョアオ・ピリス (ピアノ)

テオドル・グルシェバウアー指揮リスボグルベンギキン室内管弦楽団

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

エラート盤ということで、RIAA、逆相、第4時定数 Mid で聴いていきます。

ピリスのピアノの演奏は、若々しく華やかで勢いがあり、同じ女流ピアニストでもヘブラーやハスキルとは違った魅力を見せています。グルシェバウアー指揮リスボグルベンギキン室内管弦楽団もあまり聴く機会のないオーケストラですが、明るく華やかな演奏でピリスのピアノを支えています。

3. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレーク、Crystal E の導入の交換などの総合的な効果として、ピリスのピアノとグルシェバウアー指揮リスボグルベンギ

キン室内管弦楽団の演奏スタイルを把握できました。

以上